

左京はあとふるプラン

ニュースレター 第1号



発行日 平成23年7月20日
発行者 左京区役所区民部総務課
電話 702-1021

今後10年間の左京区のまちづくりの指針となる「左京はあとふるプラン」(左京区基本計画第2期)が4月にスタートしました。

このニュースレターでは、「左京はあとふるプラン」の推進に関する情報をお伝えしていきます。

第9回 次代の左京まちづくり会議を開催しました！

6月20日に、第9回「次代の左京まちづくり会議」を開催しました。会議では、「左京はあとふるプラン」の着実な推進に向けて、意見交換を行いました。今後、本会議では同プランの進捗よく管理等を行っていきます。

平成23年度の取組予定について（意見交換の概要）

◆「美しい自然のまちづくり」に関して◆

●京都市では木質バイオマスを活用する取組を一層推進しようとしている。その一つである木質ペレットを使ったストーブ等是有用であり、東日本大震災直後、京都市から仙台市に7台提供され、停電と石油不足の状況下で重宝された。今後、災害時でも困らないように、左京区でもペレットを生産し、一般家庭でペレットストーブが利用されるなど、エネルギーの地産地消が進めば良い。北区では雲ヶ畑中学校でPTAが山から木を切り出し、冬季のストーブの燃料として活用した。これは、きょうとECO-1グランプリ(環境省ストップ温暖化『一村一品』大作戦全国大会)で表彰された。

●「無電柱化事業」について、大地震等が起こった場合、復旧がかえって遅くなるリスクが高まるという見方もできるのではないだろうか。

●近所の幹線道路沿いは無電柱化されたが、少し外れた細い道路は無電柱化されなかった。その道路は、電柱が大きく道路にはみ出しており、よく交通事故が起こったり、車椅子が通りにくかったりするので、今後は、細い道路の無電柱化も検討してほしい。

◆「ひとにやさしいぬくもりのまちづくり」に関して◆

●「市民参加・生活安全」や「交流・共生」を進めるためにチームを作ったり、6大学の協力を得て区役所でイベントを開催するなど、今年度から2～3年かけて検討して、進めていってはどうか。

◆その他◆

●左京区での基本計画の取組について、ホームページだけではなく、区内の学校や図書館、福祉施設等で、若年層から高齢者まで誰の目にも触れるように、もっと広報した方が良いと思う。例えば、ホームページによる広報だと、インターネット利用者しか情報を得ることができないなど、全ての人に情報が行き渡っていないと感じることが多い。

●広報発表を積極的にして、もっと新聞等に取り上げてもらうようにしていくべきだと思う。左京区での取組のPR、施設のPR、区役所を拠点とした区民活動の発信をしていくべきである。



左京の自然を愛でるプロジェクト準備会の報告等について

プロジェクトの概要

次代の左京まちづくり会議で企画した今年度の新規事業であり、北部山間地域で、山歩きを通して自然の美しさを体感するとともに、山で採取した花を使いたいけ花などを通じて自然に根差した文化を楽しむ催しです。

準備会の報告

11月の実施に向けて、平成23年6月3日に実施した準備会の報告と意見交換を行いました。準備会では、午前8時30分に区役所を出発し、自然を愛でながら、3時間ほどの山歩き（花背峠～旧花背峠～寺山峠～花背スキー場跡地～旧別所小学校付近）、いけ花材料の採取、いけ花などを行いました。

また、準備会当日に参加いただいた「京都市未来まちづくり100人委員会山紫水明チーム」の方にも加わっていただきました。

意見交換

●山歩きコースは、人工林と自然林の違いが見られてとても興味深かったが、約20名で歩いて3時間ほどかかったので、11月の本番で更に大人数で歩くには長いのではないかと感じた。今回の目的はただ歩く「登山」ではなく、「自然を愛でる」こと、山についての知識を得ながら歩くことが目的であるので、花背峠から旧花背峠のみのコースにするなど、ルートを短くして、木などの話を聞く時間をもっと増やした方が良い。

●今回は、約20名全員で歩いたが、11月はグループをいくつかに分けて、各グループに説明のスタッフを付けるのが良いのではないかと。

●（「京都市未来まちづくり100人委員会山紫水明チーム」のメンバーから）

昨年度から「チマキザサ再生プロジェクト」に取り組んでいる。花背の山等で絶滅危機に瀕している笹を市民が「里親」となって育てており、秋には花背の森に返す予定である。今後、左京区役所と協力していきたい。



11月の開催に向け、今後も検討を重ねていきます！！